

国立大学法人等職員採用試験（図書）の専門試験出題傾向

谷山 美桜

現在までの研究では、大学図書館職員として働くために必要な専門知識に関して現職者を対象とする調査等は行われていたが、大学図書館職員採用時に職員に求められる専門知識については十分に検討されていないことや国立大学法人の図書館職員採用試験問題を詳細に研究したものがないことから、本研究では、国立大学法人等職員採用試験（図書）の採用試験問題を分析し、採用時に国立大学法人の図書館職員に求められた専門的知識について分析・考察した。研究方法としては、文献調査、試験問題の分析調査を行った。試験問題の分析調査では国立大学法人等職員採用試験が開始された平成 16 年度から平成 28 年度までの 13 年分の問題 303 問を頻出キーワード、出題形式等で分析した。また、13 年分の問題を 4 年（前期）、5 年（中期）、4 年（後期）に分け、kh_coder を用いた分析も行った。

調査の結果から以下のことが分かった。

- ・採用試験は全国を 7 地区のブロックに分けて実施されており、第 1 次試験では教養試験（多肢選択式）を行い、第 2 次試験では専門試験と採用大学ごとの人物試験が行われている。専門試験では、図書館学概論、図書館資料論、資料組織論、資料利用論、図書館管理論及び情報管理論に関する専門的知識について問われており、可否は専門試験の結果と人物試験の結果で採用試験を行った各法人が決定していることが分かった。
- ・試験の出題形式は、「記述（文章）」（60 件）、「穴埋め（記入式）」（50 件）、「五肢択一式」（50 件）、「選択式」（42 件）、「正誤判定」（39 件）、「穴埋め（選択式）」（37 件）、「記述（用語）」（25 件）が採用されている。「五肢択一」の問題が多い理由としては問題が公開されている平成 16 年度のみ問題すべてに五肢択一式が採用されていたことが挙げられる。
- ・頻出キーワードは、「目録」（28 件）、「大学図書館」（18 件）、「データベース」（16 件）、「著作権」（15 件）、「日本十進分類法新訂 9 版」（15 件）、「情報探索」（10 件）、「図書館運営」（10 件）が頻出していた。この他のキーワードに関してはほぼ同程度の出題件数だった。頻出キーワードから、出題テーマは「目録法」が一番多くなっており、特に「日本目録規則」に関する出題が多くなっている。
- ・専門試験では、目録法や分類法、情報検索、レファレンスに関する問題が多く出題されており、特に分類法では「日本十進分類法」に基づいて第三次区分表で図書を分類する問題が出たりと現場の業務に必要とされている知識も求められている。
- ・出題数は平成 20 年度以降、平成 21 年度、27 年度を除いては 20 問となっている。しかし、各年度における英語問題の出題数にはバラつきが見られるなど、限られた出題数の中で年度によって出題領域や出題形式に偏りが見られる点が課題として挙げられるのではないかと考える。

（指導教員 辻慶太）